

# 認知症ケア医療介護連携体制の構築事業 H26～27年度実績報告

三重大学医学部附属病院 認知症センター

## ◇目 的

三重県もの忘れネットワークにおける多職種間の連携・協働を進めるために平成26年度は「みえる手帳」を新たに作成しました。「認知症ケアの医療介護連携体制構築事業（平成26年度～平成27年度）」の中で、各地域で病診連携、医福連携を展開していくための基盤整備を行うことを目的とし、同時に「みえる手帳」の普及啓発活動を進めました。

## ◇対象者

三重県内のモデル地区在住で、認知症の疑いのある方

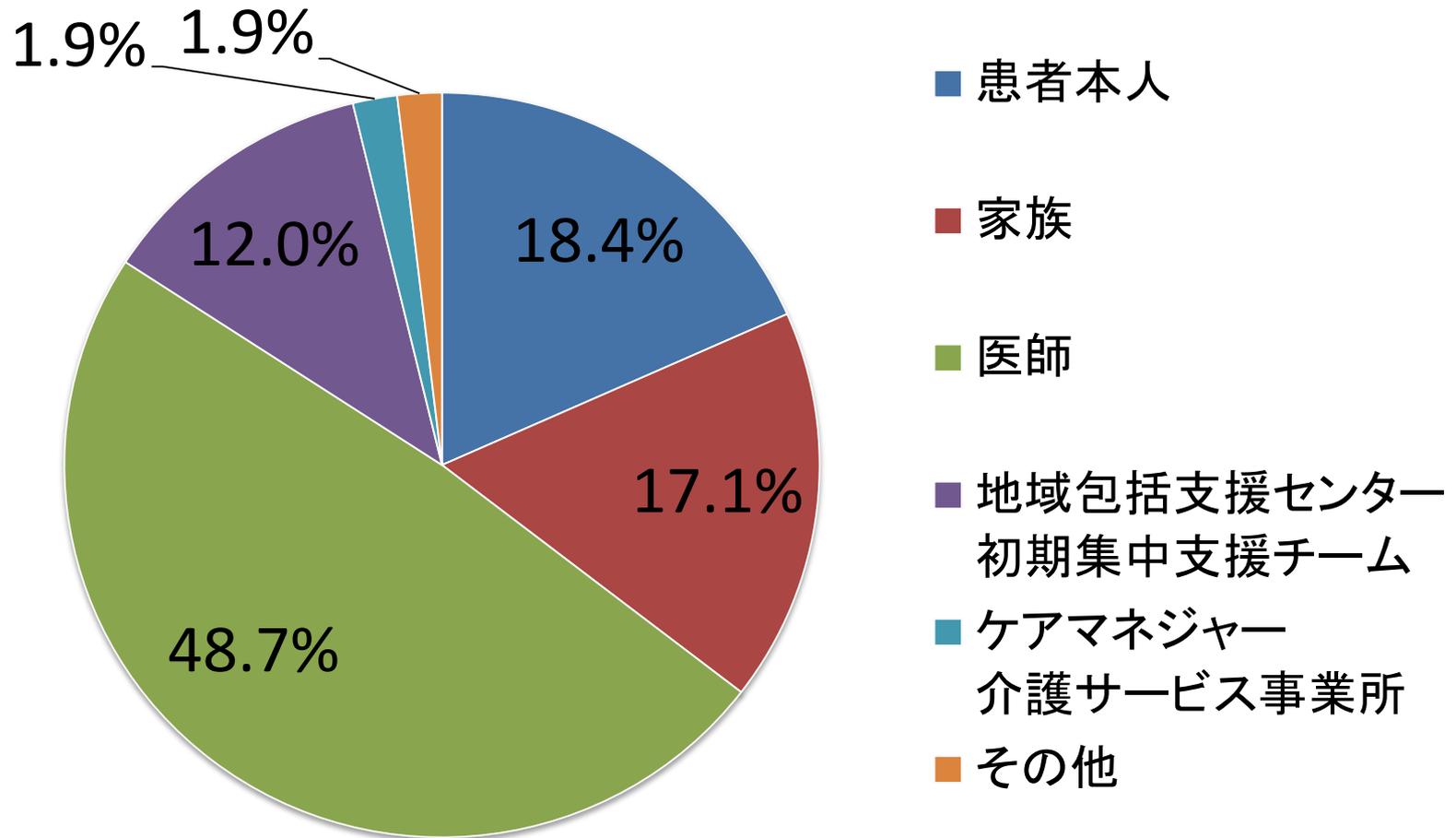
## ◇方 法

三重県内のモデル地区4市(桑名市、鈴鹿市、津市、伊勢市)に認知症連携パス推進員を各1名配置。かかりつけ医からスクリーニングの依頼を受け、ITスクリーニングによる脳機能評価を行い「みえる手帳」を活用し、認知症の早期発見・対応につなげます。平成26年度は医師や地域包括支援センター等へ、本事業の周知啓発活動と合わせて、「みえる手帳」の活用方法などを、訪問説明を中心に行い、平成27年度からITスクリーニング実施を開始しました。

## ◇結 果

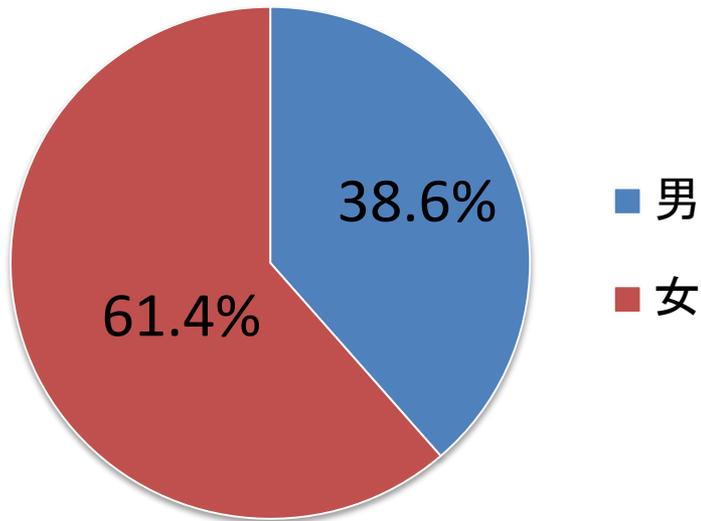
スクリーニングの相談経路では、医師の判断でスクリーニングにつながった方(48.7%)や、患者(18.4%)や家族(17.1%)からの希望でスクリーニングを実施した方もみられました。スクリーニング実施した158名のうち、男性38.6%女性61.4%でした。介護保険の要介護度は、未申請74.1%でお元気な方が多く、家族構成は、配偶者と2人暮らし41.1%、配偶者や子供同居35.4%で、同居世帯が多かったです。BPSDがある方15.8%の内容は、暴言、妄想、幻覚など初期～中期によくみられる症状が多かったです。スクリーニングの結果は、専門医療機関受診推奨(62.0%)で、専門医療機関受診推奨の方のうち、かかりつけ医が専門医療機関へ紹介されたのは67.3%でした。紹介してないケースでは、他の疾患の治療を優先させたり、コメントを参考に、かかりつけ医で認知症の治療を開始される方もみえました。専門医療機関へ紹介の際に「みえる手帳」を活用されたのは54.5%で、半数以上の医師が活用されていました。

# スクリーニングの相談経路 (N=158)

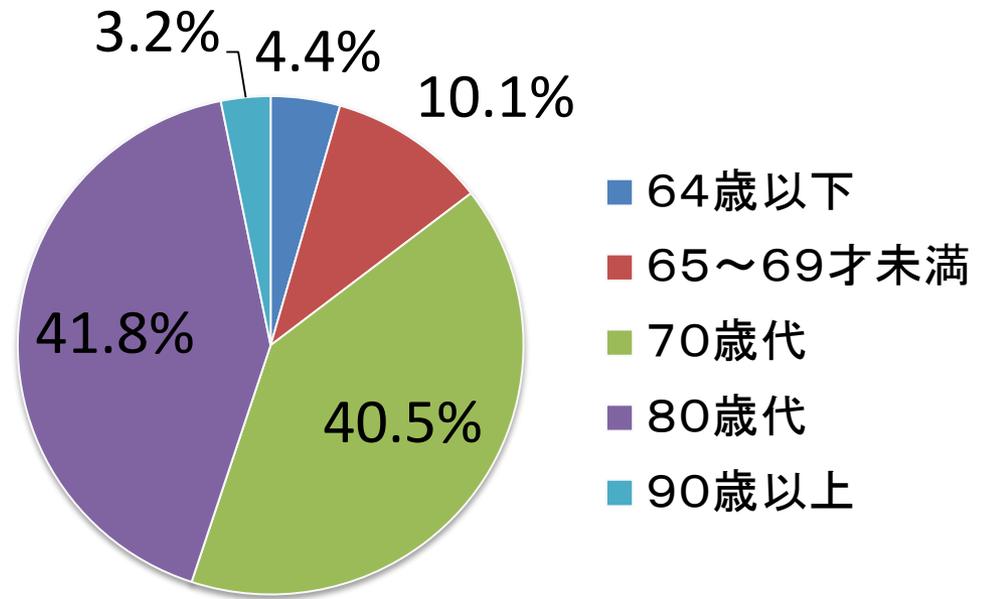


# 患者の性別と年齢 (N=158)

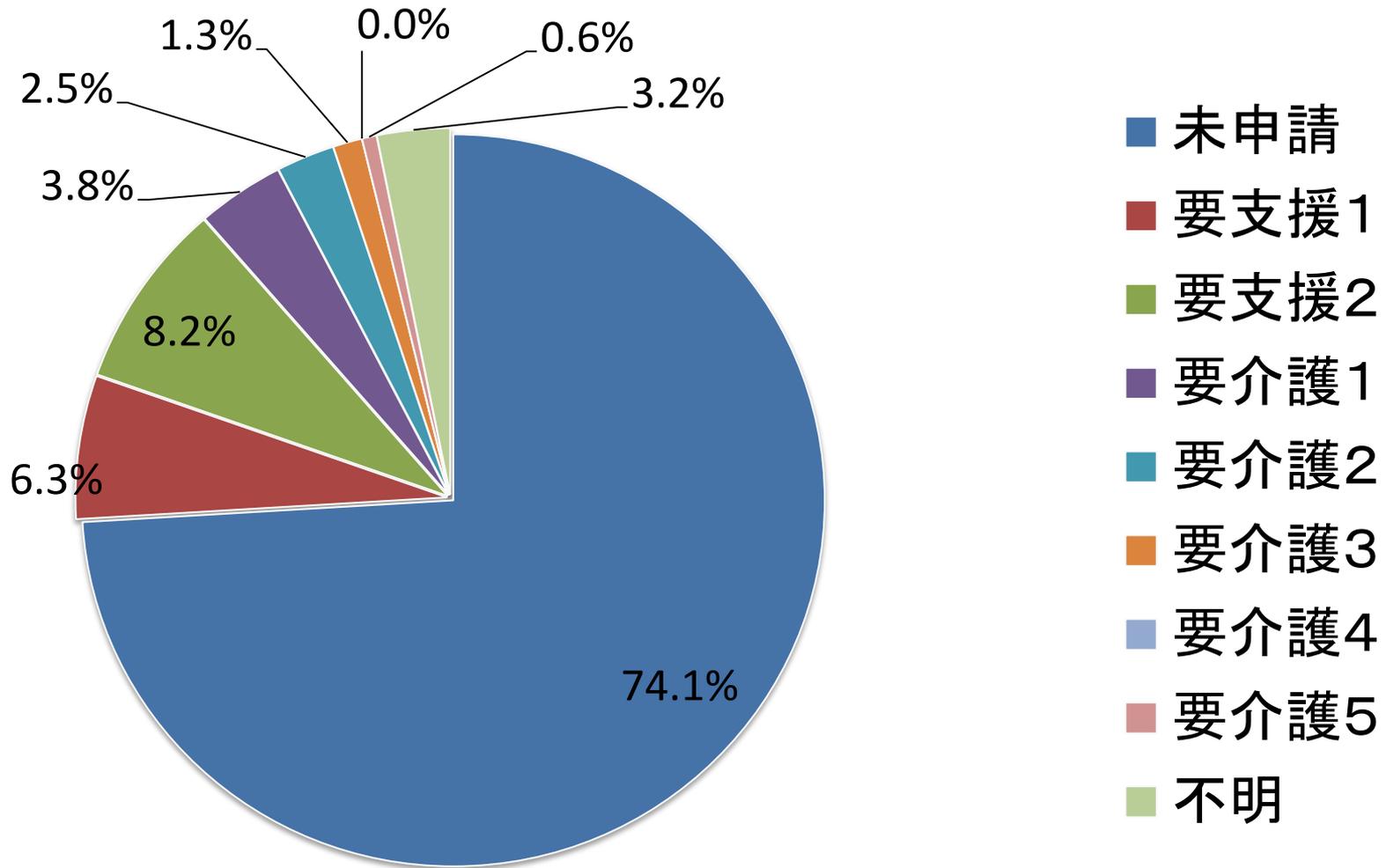
## 性別



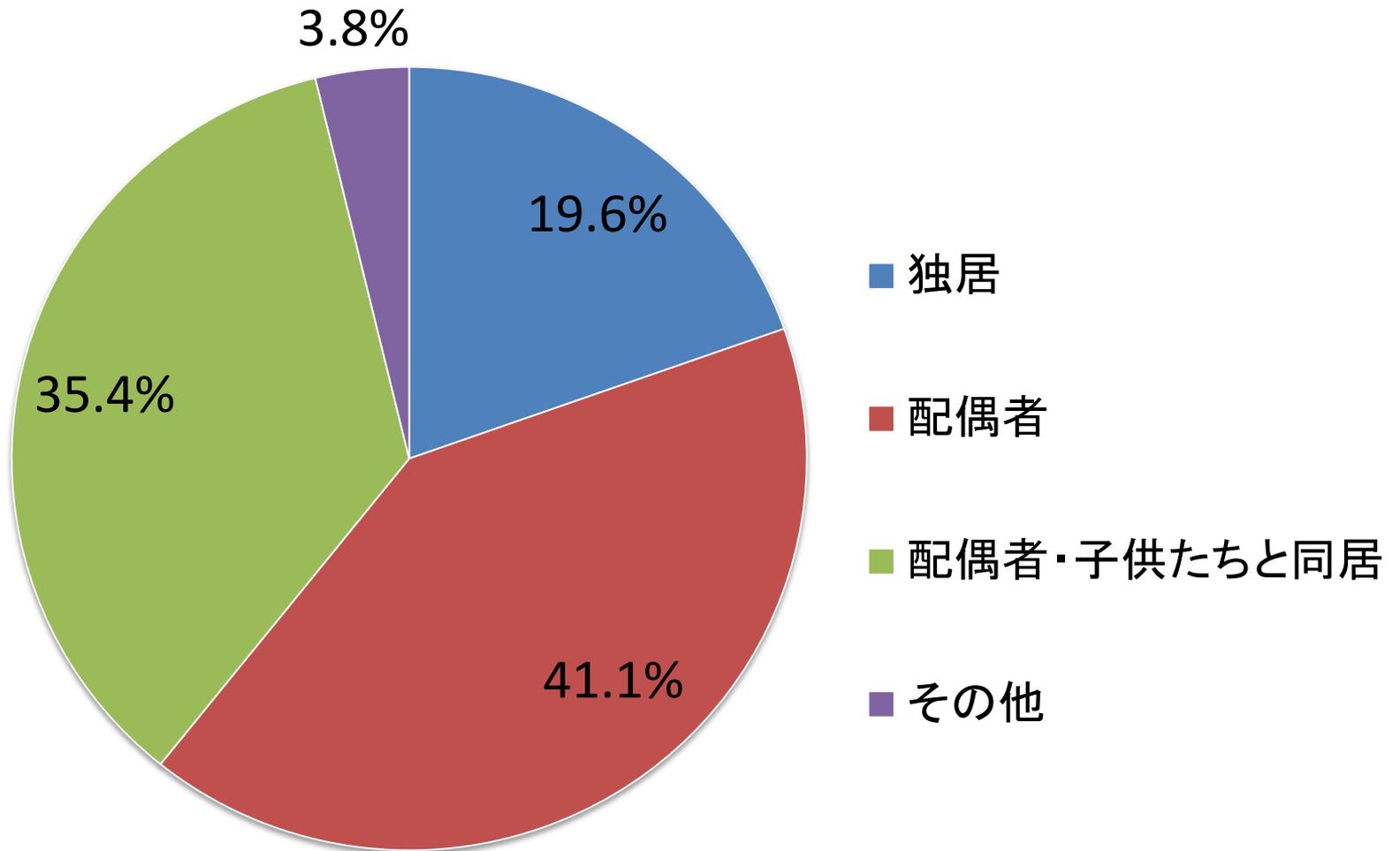
## 年齢



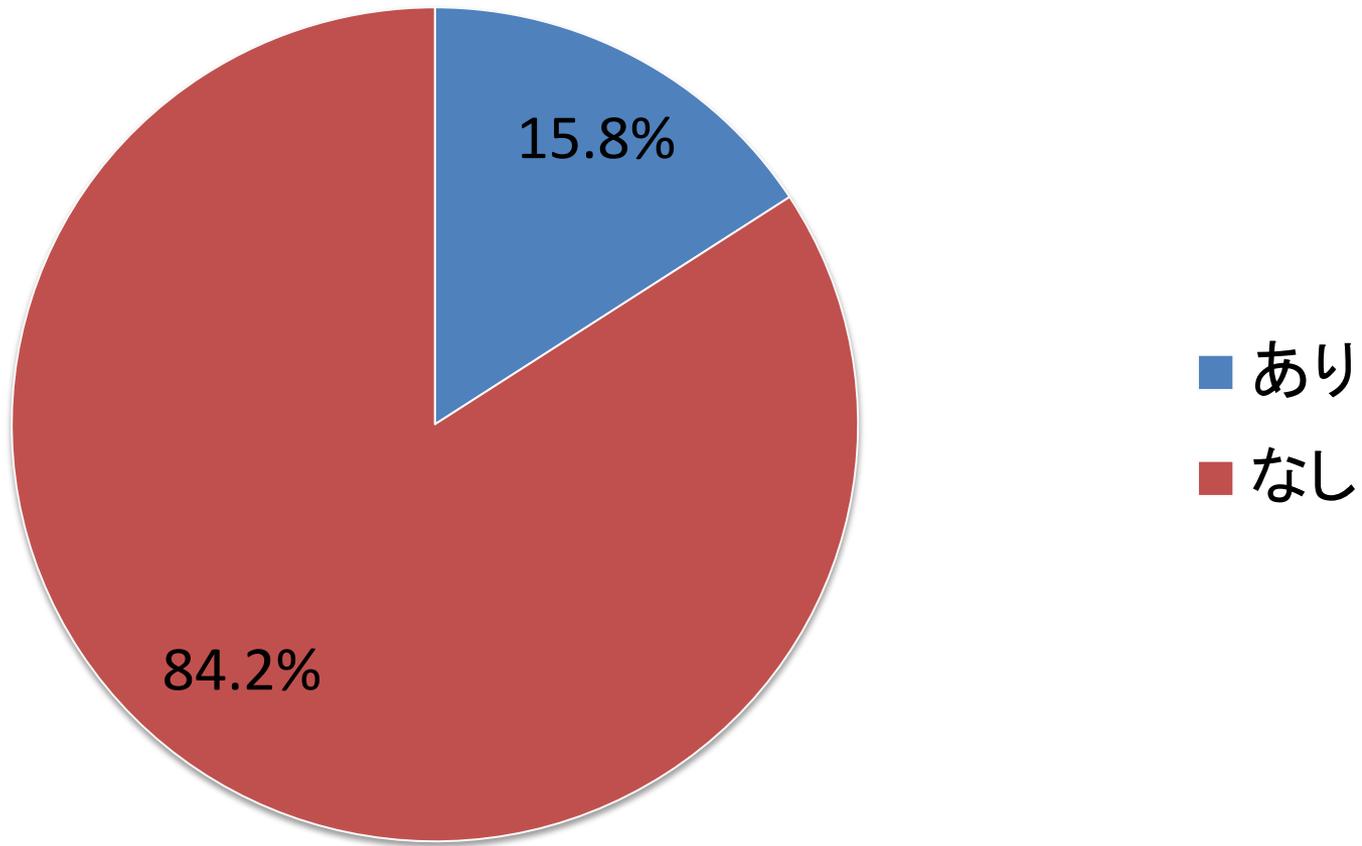
# 患者の要介護度 (N=158)



# 家族構成 (N=158)



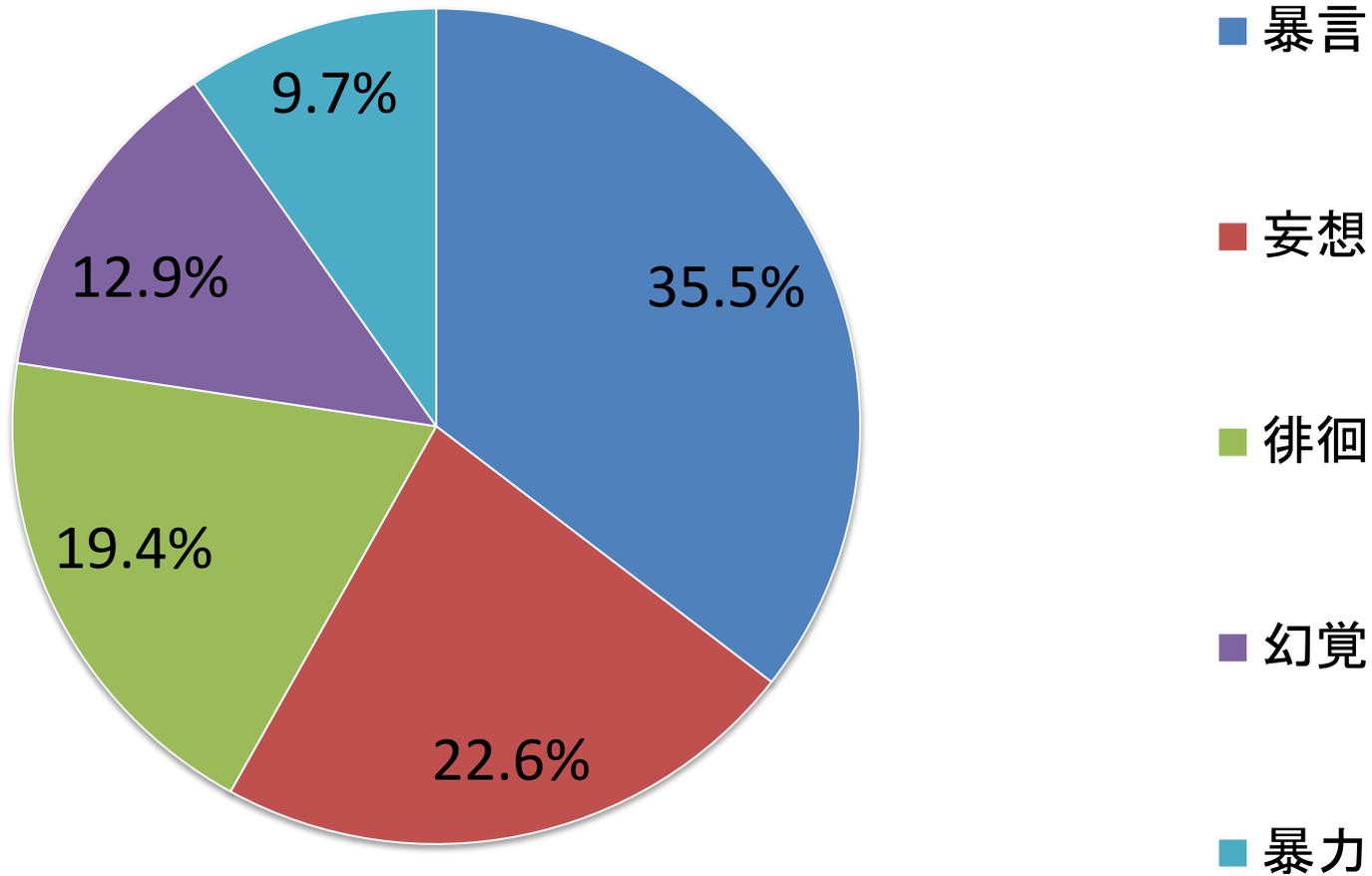
## BPSDの有無 (N=158)



※介護保険主治医意見書で記載するBPSDの内容を基準としています。

# BPSDの内容 (N=31)

※複数回答あり



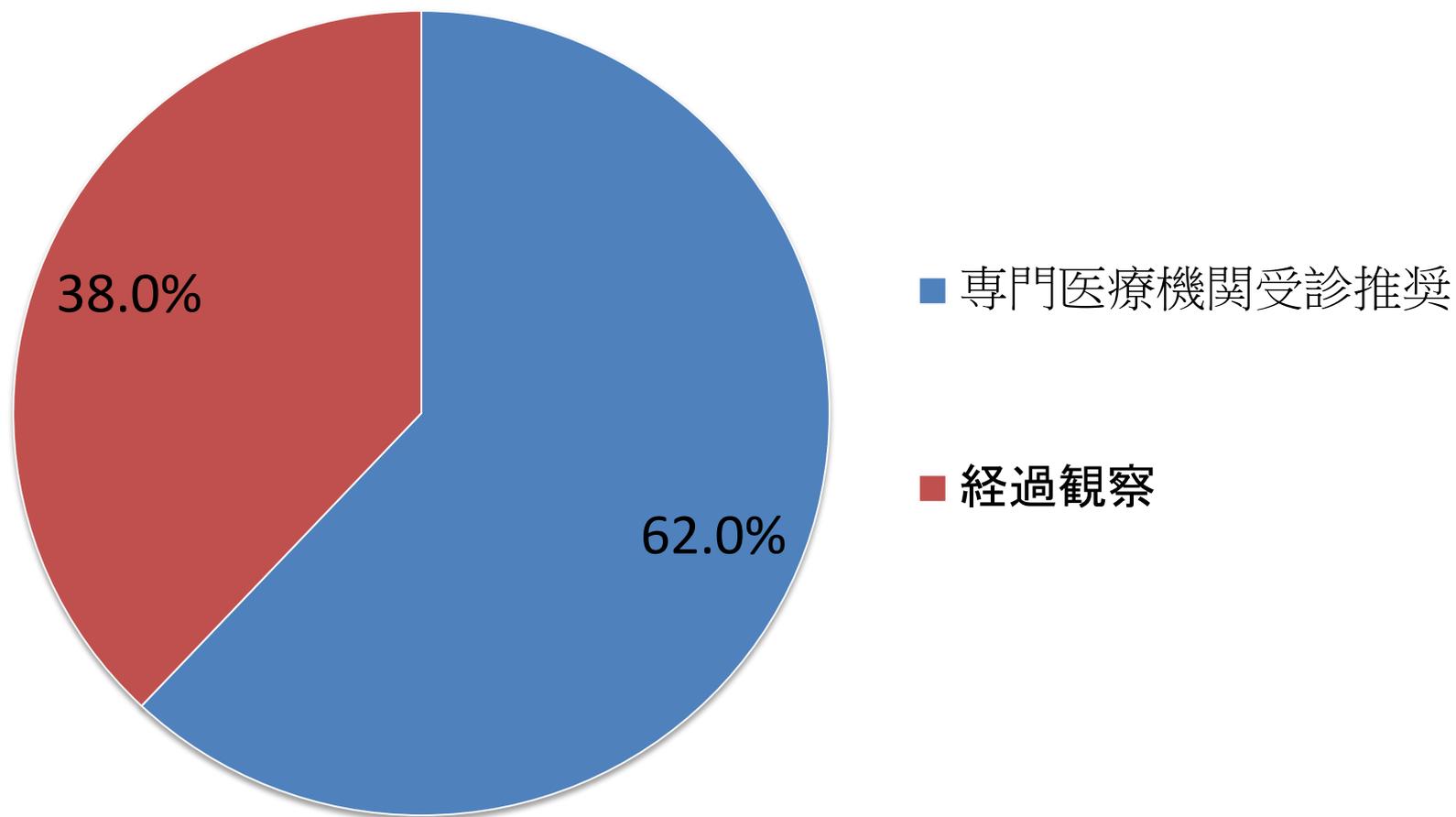
※聞き取りで挙げた内容のみ掲載しています

# スクリーニング結果 平均得点

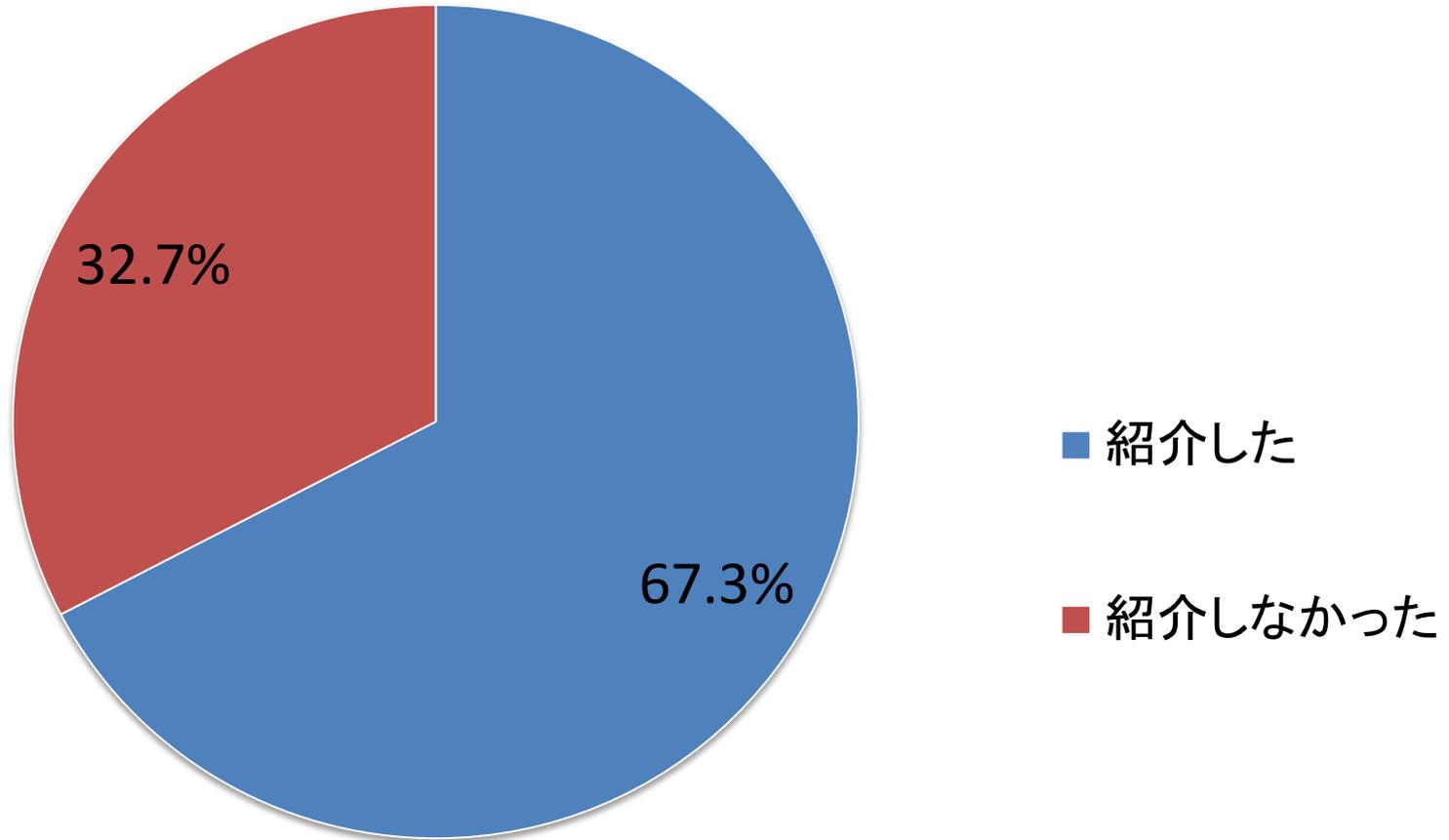
	平均
MMSE	24.1 ± 5.2
BFB	39.1 ± 9.4
AOS	30.0 ± 24.4
ADL(%)	95.6 ± 11.0

(欠損1)

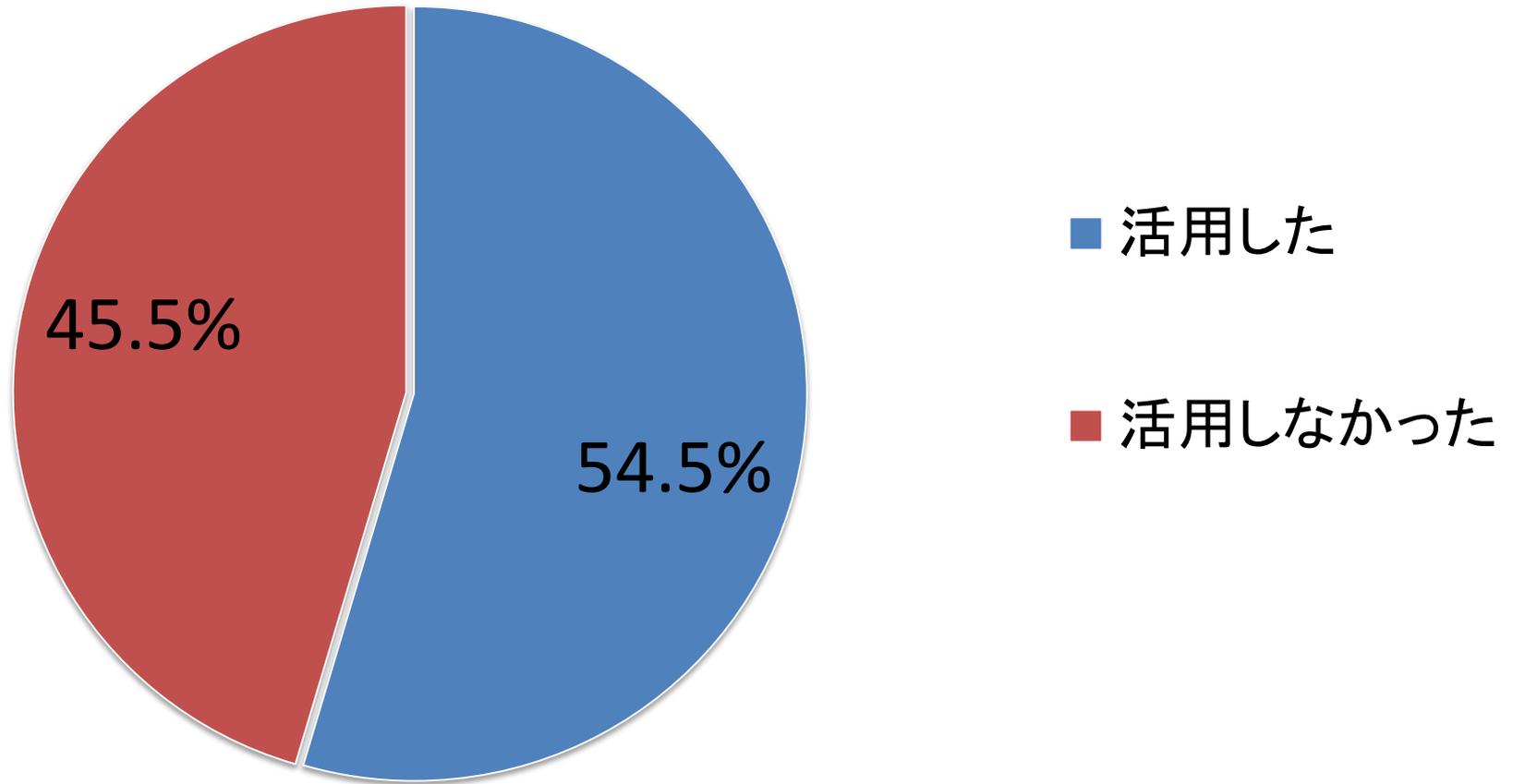
## コメント結果 (N=158)



# 専門医療機関受診推奨群の紹介の有無 (N=98)



# 専門医療機関紹介の際の 「みえる手帳」使用の有無 (N=66)



# 鑑別診断結果 (N=65)

